

陸前高田市の今 第二報

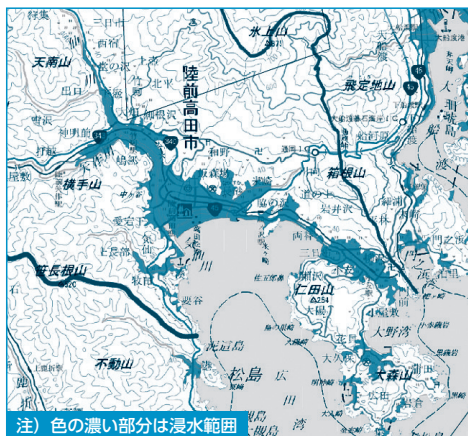
東日本大震災が警鐘する地域保健活動のこれから



日本赤十字秋田看護大学
佐々木亮平

(ささき りょうへい) 看護学部 助教

陸前高田市浸水範囲概況図 (抜粋)



(連絡先: 〒 010-1493 秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢 17-3 018-829-4125 ryoshei-s@rcakita.ac.jp)

I はじめに

前号の緊急特集「東日本大震災」現地レポートで、岩手県陸前高田市(以下、市内または現地)における発災から1カ月間の活動内容から見てきたことをご報告しました。

その後も私は引き続き、本学の理解と協力(許可)を得て、毎週現地に入り、地域全体の俯瞰、各保健医療福祉チームの調整・統括機能にかかる後方支援活動を継続して行っています。この間、公益社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター長の岩室紳也先生も2回4日間にわたって現地入りし、公衆衛生ねつと²⁾を中心とした全国の公衆衛生関係者(公衆衛生ボランティア後方支援チーム)のみなさまからのご支援とともに、「現場のためになる」体制づくりと中長期

的展望をもった対応のプランニングを
現地のニーズに沿って進めています。
今回、発災から2カ月がたった現在（5
月11日）までの状況をご報告します。

Ⅱ 「東北人は忍耐強い」… と言っても限界

平成23年5月11日（被災から61日目）
現在の死者は1472人、行方不明者
は729人となっており、依然として
家族や友人、同僚等の安否が分からな
い中での避難生活が続いています。市
内避難者数（**図1**）は発災から1カ月
ごろをピークに少しずつ減り続けては
いますが、総じて生活環境が大きく改
善しているとは言えない状況にありま
す。最初の1カ月間は、お互いさまで
がんばろうという意思のもとに地元ボ
ランティアや自治会を中心にまとまる
ことができていましたが、この1カ月
間は一向に見えてこない将来への不安

に議論し描くことができています。

Ⅲ 保健医療福祉に関する 復興状況

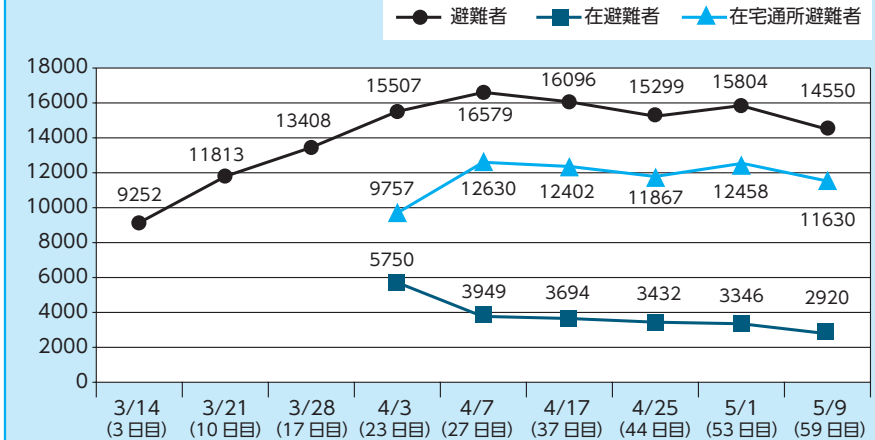
23年5月9日（発災59日目）現在

発災直後は、63ページの地図³⁾のと
おり、市街地の86%が津波による浸水
被害を受け壊滅状態となったため、市
役所（保健センター・地域包括支援セ
ンター含む）はもちろん、11カ所あつ
た医療機関は内陸部の診療所を除くす
べてが流され、同様に歯科診療所（9
カ所）や薬局（9カ所）の全施設、介
護保険関連施設・事業所のほとんどが
機能できない状況にありました。

1 保健

岩手県大船渡保健所・一関保健所の
全体調整・統括により、県内外から常
時11、12の保健師チームの応援を受け
ながら活動が継続されています。4月
6日にスタートした市内全世帯を対象

図1 陸前高田市避難者数推移



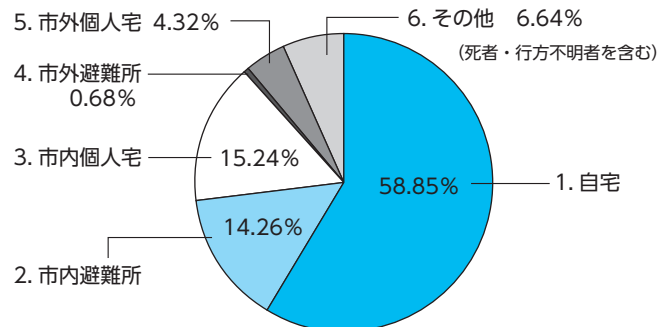
とした「健康・生活調査」は、5月
6日現在で75・69%の世帯が終了し、
1152件についての仮集計・分析作
業を終え、現地での情報の共有⁴⁾と全
国に向けての情報発信をしています。

現在、岩手医科大学医学部衛生学公
衆衛生学講座の坂田清美教授や同大学
歯学部口腔保健育成学講座の米満正美
教授、田沢光正非常勤講師、相澤文恵
助教の協力の下、本入力・集計・分析
作業も並行して進めているところで
す。この調査は、単なる実態把握のた
めの調査ではなく、支援チームによる
ケアも兼ねており、必要に応じて医療
チームへの引き継ぎや、母子・高齢者・
障がい等の要支援ケースの確実なピッ
クアップ（絞り込み）とその後のフォ
ローを同時に行っています。

図2は、現在確認できている方々の
所在です。市外に避難されている方も
おりますが、自宅を失った方々の多く
は地元（市内）での生活を希望され、

図2 現在の所在

(N = 19,341)



や、避難生活が長期化している
ことの現実、被災者間の格差の
問題などから我慢の限界にきて
いるように感じています。どん
なに「東北人は粘り強く、忍耐
強い」と言っても、このような
状態が今後も継続することは、
精神的にも望ましい姿とは言え
ません。
あわせていわゆる応急対応期
（GW明けまでを想定）（その後
↓応急対策期Ⅱ平成23年9月末
↓回復支援期Ⅱ平成25年3月目
標↓復興期Ⅱ平成25年4月〜と
暫定的に規定）が終わり、医療
チームをはじめ、各専門チーム
が撤退し始めており、災害救助
法が7月10日まで再延長された
とはいえ、本当に必要な支援が
これからも継続して確保できる
のかどうか市民のみさんとは
もちろん、関係者の中でも十分

一時的にでも県内内陸部への避難は行
わず市内の避難所や個人宅等での生活
を続けられていることが分かります。
保健師チームは、全戸調査が始まる

前から避難所ごとの健康相談を行っており、これまでの相談件数は延べ7000件を超え、高齢者や寝たきり（ADLの低下）、生活習慣病、乳幼児・児童、感染症等、多岐にわたっており、避難生活が長期化していることによるより具体的な対策が求められています。

なお、4月22日には、名古屋市（保健師2人、事務1人）と隣接する一関市（保健師1人、栄養士1人）から1年間の支援チームが入り、長期的専門的に継続して支援いただける体制となりました。

そのほか、地元関係スタッフを含めたこのころのケアに関するチームも活動をしており、岩手県精神保健福祉センターおよび東京都のチームが調整を行いながら、このころのケア外来や啓発活動、個別面談等、医療（治療）モデルと、ストレス低減モデルの両方向からサポートいただいています。

栄養・食環境に関しては、これまで十分な協議を行い、積極的に対策を展開することができていまそんでしたが、総エネルギー量やたんぱく質の摂取量等、避難所ごとに差があることも見えてきたことから、仮設住宅への移行期に合わせて保健師チームと連携しながら進めていく予定としています。

運動は、3月末から、ボランティアで市外（全国）から健康運動指導士のみなさんに入っていただき、避難所単位でのストレッチやリズム体操等を実施いただいておりますが、運動による身体・精神面のリフレッシュだけでなく、運動を通じてその地域でのつながりの場として展開していけるよう、これも保健師チームや地域リハビリテーションチームと協力しながら、地域の実情に合わせた形で進めています。

2 医療

2カ月たった現在では、日本赤十字

社をはじめとする医療支援チームの協力により、救護所もしくは診療所の形で7カ所の医療機関が再開しています。しかし、残る4カ所の再開は難しい状況にあり、GWが明けてからは、支援に入っていた各チームも10チーム近くが撤退する予定となっています。市内基幹病院である県立高田病院は7月上旬頃を目標に仮設病院ができる方向で進んでいます。それまでの期間の診療体制維持、そしてその後、支援チームが撤退していく中で訪問診療や訪問看護といった形で在宅ケアニーズに対応できるのか、プライマリケアを確保できるのかという課題に対して、地元関係機関だけでなく現在支援に入っているチームや岩手県全体の中でも議論し、今の時点から青写真を一緒になって描いていく必要があります。なお、神戸市からの保健チームにはこれら医療チームとの橋渡し役や行政支援・助言をいただいています。

そのほか、歯科診療所は2カ所で再開したものの、残りの先生方の再開の目途は立っておらず、現在も入っている岩手県歯科医師会などの支援チームの応援がなければ診療体制を維持することは困難になっています。薬局は、3カ所で再開し、さらに5月16日以降は気仙薬剤師会の協力により、これまでに隣接する大船渡市や岩手県内陸部にある盛岡市（車で2時間）に依頼していた院外処方箋を市内で対応できる体制にしようとしています。

3 福祉等

高齢者・介護保険部門については、市地域包括支援センターが中心となつて居宅介護支援事業所や各施設等とともに活動を再開していますが、スタッフだけでなく事務所や車両等も流出しているため、デイサービスや訪問入浴サービス等も水や電気の復旧状況に合わせて少しずつサービス量を増やしている状況にあります。「チーム福井」

等による託老所（福祉避難所）の設立・運営や日本赤十字社介護支援チーム等による現地スタッフの支援もいただいておりますが、まだまだ、毎日の対応に追われている状況にあり、全体の調整や保健師チーム等との連携、中長期的な見通しをもった計画立案までには必要性を感じてはいるものの至ってはいません。

そのほか、三障がい関係、保育所等各部门においても、一関市や名古屋市のからの高齢福祉や生活保護、児童福祉事務、総務事務支援チームの協力を得ながら少しずつ進んでいる状況です。

Ⅳ 中長期的なデザインの策定に向けて

ここまで各分野の状況を書いてくると、ずいぶんこの1カ月で復興してきているような印象を受ける方もあるかもしれませんが、実際には誌面ではご

社をはじめとする医療支援チームの協力により、救護所もしくは診療所の形で7カ所の医療機関が再開しています。しかし、残る4カ所の再開は難しい状況にあり、GWが明けてからは、支援に入っていた各チームも10チーム近くが撤退する予定となっています。市内基幹病院である県立高田病院は7月上旬頃を目標に仮設病院ができる方向で進んでいます。それまでの期間の診療体制維持、そしてその後、支援チームが撤退していく中で訪問診療や訪問看護といった形で在宅ケアニーズに対応できるのか、プライマリケアを確保できるのかという課題に対して、地元関係機関だけでなく現在支援に入っているチームや岩手県全体の中でも議論し、今の時点から青写真を一緒になって描いていく必要があります。なお、神戸市からの保健チームにはこれら医療チームとの橋渡し役や行政支援・助言をいただいています。

うため、半年後や1年後、2年後の陸前高田市がどうなっているか、どうなるとよいかという点についても現在いる各チームから意見をいただけるよう、「陸前高田市保健医療福祉未来図（復興計画）たたいてちよう台」⁴⁾を作成しています。

これは文字通り、たたき台であり、支援チームだけでなく今、陸前高田市の復興にかかわっている関係者全員に「たたいてほしい」ものとして提示しているものにすぎず、現在進行形で、短期・中期・長期と現状を踏まえてデザインできるよう、みなさんからのご意見を蓄積しながら、ほぼ毎週更新し、公衆衛生ねつと内の「陸前高田市のいま」⁵⁾で情報発信しています。ここでは、包括ケア会議での PowerPoint の資料も掲載しており、支援に入る前や入った後でも内容を確認できるようにしています。この議論を進めることにより、現在の支援だけでなくより具体

的に中長期的な支援の必要性についても確認し合えることを期待しています。そのほか、4月19日からは、現在、交代で支援に入っていたいただいているチームのみなさんに対し、3～5日間の限られた活動日程の中で気が付かれたことを今後の活動に生かしていけるよう派遣元に戻られてからの活動報告書の協力をお願いしています。派遣中の活動内容を派遣チーム内だけでの引き継ぎに終わらせるのではなく、陸前高田市への助言という形でいただいています。この内容についてもデータでいただき次第、前述した「復興計画」たたいてちよう台」に即、反映できるようにしています。

V 現場のためになる支援を

先月号でも、私は現場の状況に最大限配慮をして報告したつもりでした

関係スタッフに指示を求め、依存するということは違います。「分からないことは、現地スタッフに聞けばよい。現地の判断を仰ぐ、もしくは指示がなければ活動できない」という発想自体が、支援活動全体の効率化を低下させ、現地スタッフの健康を追い詰めることになりかねません。

おそらく、支援に入った側は、過去の経験も踏まえ、さまざまなことが見え、気が付くことができます。それは貴重な意見であり、被災地に必要な情報ではあるのですが、願わくはそれがはたしてその現場で直ちに使えるのか、現場の現状、実情に合うかどうかという謙虚さをもって発言してほしいと思います。現場がやりたいと思っ

ていて、現場がやりたいと思っ

ていて、現場がやりたいと思っ

が、それでも、現実的には厳しいということがこの1カ月間でもいくつか分かってきました。

まず被災地の自治体である陸前高田市には、主体者として市の姿勢・方針を明確に打ち出せることを求められる姿勢として書きましたが、今は求めることができないと思っています。被災地のことをよく知っている関係スタッフの力なくしては支援チームが活動することができないということは事実ですが、支援チームは短期間の交代制で入ってきます。それに対し、現地スタッフは自らも被災者であり交代できるわけもなく、2カ月間の疲労蓄積と混乱の極みにあり限界に近い状態となっている中で、新しいチームが入ってくる度に指示を求められ続けます。支援に入っていたいただいているみなさまにおかれましては心悪く思わないでいただきたいのですが、現場の声に耳を傾け共に考え行動するということが、現地の

らにその後ろには「公衆衛生ねつと」の情報共有サイトがあるというような重層的な支援システムを作り上げることが必要と考えています。重要なことは常に「現場のためになるのかどうか」という原点に常に立ち返ることです。お互いが遠慮することではなく、現地のためにという思いは共通の目的です。ので、そのための手段として行われるさまざまなメニューについて、押しつけではない本当の支援を支援に入るみなさまにはお願いしたいと思います。

文献・インターネットサイト

- 1) 佐々木亮平：東日本大震災が警鐘する地域保健活動のこれから～岩手県陸前高田市での活動から見えてきた津波災害への対応～、月刊地域保健、2011（5）：72-79
<http://www.koshu-eisei.net/>
- 2) 国土交通省 国土地理院 浸水範囲概況図
<http://www.gsi.go.jp/kikaku/kikaku60003.html>
- 3) http://www.koshu-eisei.net/upfile_free/higashinihonshinsaisaifukukeikaku505.pdf
- 4) 公衆衛生ねつと内「陸前高田市のいま」
<http://www.koshu-eisei.net/saigai/rikuzentakada.html>